

平成27年度 北陸地域マッチングフォーラム

北陸大豆の変革！
～新品種と新技術で安定多収～

プログラム

平成27年12月2日(水) 13:10～17:30

「ホテル センチュリー イカヤ」 飛天の間・扇の間

主催 / 農林水産省大臣官房政策課技術政策室、農林水産省北陸農政局、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター
後援 / 新潟県、新潟県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部、
公益財団法人日本特産農産物協会

平成27年度 北陸地域マッチングフォーラム

北陸大豆の変革！

～新品種と新技術で安定多収～

1. 開会 13:10

2. 主催者挨拶 13:10～13:20

3. 発表

〈研究情勢報告〉

①北陸地域における大豆生産の現状と展開方向 13:20～14:00

～低収要因の解析、新品種導入、作業技術体系～

農研機構 中央農業総合研究センター水田利用研究領域

主任研究員 中山則和、上席研究員（チーム長） 関 正裕

北陸地域の大豆は、収量と品質の両面で全国平均を下回る状況が続いており、これらの解決が重要な課題となっている。最近、主力の「エンレイ」から品種の切り替えが進みつつあることから、新品種導入により当地域の大豆にもたらされる効果について考えるとともに、作業の省力化や経営規模拡大に寄与する新たな作業技術体系について紹介する。

〈実需者の声〉

②実需者からみた国産大豆への期待 ～上越産大豆による豆腐生産の取り組み～ 14:00～14:15

(有)万九渡辺食品 代表取締役 渡辺秀市

弊社では、納得のできる豆腐作りのため、にがりとの相性や様々な大豆を試し、ようやく現在の味がかたちとなった。国産大豆関連商品では、主に上越地域産の契約栽培大豆を使用し、こだわりの商品を生産している。豆腐生産者としての国産大豆への思い、要望や期待を述べさせていただく。

〈北陸地域各県における研究開発と普及〉

③福井県における新品種「里のほほえみ」の導入・普及 14:15～14:35

福井県農業試験場 作物部作物グループ 主任研究員 笈田豊彦

福井県では平成22年より「里のほほえみ」を導入し、平成27年には大豆作付面積の80%を越す（9月推定）まで順調に普及してきた。「里のほほえみ」の魅力と留意点、および新品種普及に当たっての活動とその成果について紹介する。

④富山県における新品種「シュウレイ」の導入と高品質・安定生産のポイント 14:35～14:55

富山県農林水産部農業技術課

広域普及指導センター副係長（農業革新支援専門員） 青木由美

実需者ニーズに対応した高品質な大豆の安定生産を図るため、新たに導入した「シュウレイ」について、品種特性と収量・品質の向上に向けた栽培技術及び病害虫防除対策のポイント、並びに普及拡大に向けた取り組み等について紹介する。

休憩・展示見学（20分間）

⑤石川県における大豆栽培の機械化対応技術

15:15～15:35

石川県農林総合研究センター農業試験場

中央普及支援センター担当課長（農業革新支援専門員） 友田 毅

石川県における大豆生産の概要（単収、品質の推移、2年3作体系の推進）を示し、機械化体系の現状（水田作における畝立同時播種の普及、河北潟干拓地における高速機械化体系）を報告する。さらに、新品種「里のほほえみ」の導入に向けた狭畦栽培技術について、現地での取り組みを紹介する。

⑥優良生産事例の紹介と新潟県大豆生産振興の取り組み

15:35～15:55

～平成26年度全国豆類経営改善共励会・農林水産大臣賞受賞～

新潟県農林水産部農産園芸課 主任 佐藤 大

新潟県では大豆の収量・品質の低迷が続いている。この中で、収量300kg/10a・上位等級比率60%以上を確保し、平成26年度全国豆類経営改善共励会で農林水産大臣賞を受賞した生産者の栽培管理のポイントと、新潟県大豆生産振興の取り組みを紹介する。

4. 総合討論（パネルディスカッション）

16:00～17:00

5. 研究成果の展示と技術相談

展示 12:30～、技術相談 17:00～17:30

（農研機構および北陸各県の新技术に関するパネルや実物等の展示と技術的な相談、北陸農政局および関係団体による展示と資料配付等を予定）

6. 閉会

17:30

開催にあたって

我が国農業の競争力・自給力強化に向けて、土地利用型農業の再編と活性化が求められています。良質米生産基地である北陸地域では、売れる米作りとともに大豆生産等を含めた水田のフル活用により、経営基盤の強化と安定化が重要な課題となっています。一方、近年は大豆収量の低迷と品質低下等の課題があったものの、新品種の導入と栽培技術等の研究の進展により、北陸大豆は大きな変革の時期を迎えています。このため、今年度のマッチングフォーラムでは、北陸地域における大豆生産の現状と展開方向を考えるとともに、農研機構および北陸各県の技術開発と普及実践の成果等を紹介し、総合的な意見交換を行うことにより、大豆生産の振興と水田を基盤とした北陸農業の活性化を図ります。

大豆の低収要因解析結果、新品種「里のほほえみ」「シュウレイ」の栽培に関する疑問、優良事例からみた栽培のポイント、コスト低減のための作業技術体系、国産大豆に関する実需者側の考え、さらに国産大豆に対する消費者の関心やニーズ等々について、立場の異なる参加者が最新の情報を共有するとともに、意見交換の場として活用いただければ幸いです。

- ・こだわりの豆腐の味 ・豆腐や味噌、どちらを選ぶ？ 国産大豆VS.外国産
- ・大豆と飼料用米、どちらを作付けしようか？ …さあ、一緒に考えましょう！！

会場案内

■アクセス



会場所在地：〒942-0001 新潟県上越市中央 1-2-7
TEL.025-545-3111

入場無料・来聴歓迎

会場へのアクセス

会場の正面玄関は、えちごトキめき鉄道・JR直江津駅(北口)を出て左手側の信号を渡ったところになります。会場は直江津駅に隣接していますので、鉄道やバス利用に便利です。

駐車場について

ホテルの無料駐車場は24台(先着順)です。台数に限りがありますので、直江津駅南口駐車場(契約駐車場)をご利用ください。ホテルのフロントで駐車券を発行します。

●お問い合わせ



中央農業総合研究センター
北陸研究センター 連絡調整チーム
〒943-0193 新潟県上越市稲田 1-2-1 TEL 025-526-3215